



St. Luke's Society for Nursing Research

聖路加看護学会ニュースレター



■ 将来構想委員会として、聖路加看護学会の今後の展望

聖路加看護学会 将来構想委員長 太田喜久子

本委員会は、2020年の理事交代に先立ち、本学会運営の方向性を議論するために発足した。委員は、太田喜久子(委員長)、松谷美和子、亀井智子、蜂ヶ崎令子、三浦友理子である。なお、本学会の将来構想委員会は、2005年度、2008年度、2015年度にも設置されている。本委員会の検討を経て、理事会に答申した内容は次のとおりである。

本学会は、設立25年を迎え、日本看護系学会協議会設立当初から会員となり、看護実践向上につながる研究知見の発信を行ってきた。大学院生の研究等、若手研究者の発表の場としても役割を果たしてきた。一方で、看護系学会の増加を受け、近年本学会への論文投稿数、学術大会への演題登録数は減少している。会員数は600名程度と横ばいであり、会費の納入率は70%である。学会運営をさらに活性化する施策を積極的に行っていくための資金を確保するためには、会費の納入、新会員の加入を促すことが不可欠であり、より魅力的な学会誌ならびに学術大会を創造していく必要がある。

学会設立の趣旨を尊重し、聖路加が培ってきた基盤や取り組みを十分に生かすことで、他の看護系学会にはない本学会ならではの独自性を打ち出していくことが重要であるという結論に至った。検討した主な対応策を下記に上げる。

1) 学術大会での取り組み

- ① 市民参加を促進する。市民(サービス利用者等)の発表や学会参加の機会を設ける。
- ② 発表演題を表彰する制度を創設する。

2) 学会誌刊行に関する取り組み

- ① 採択後、迅速に公表する。
- ② 査読の迅速化を進める。査読委員の任命、期日までの査読完了の仕組みづくりを行う。
- ③ 研究助成者の投稿確認をシステム化する。
- ④ 被引用数の増加のため総説の投稿を促進する。概念分析、システムティックレビュー、修士論文、卒業論文のレビュー論文の投稿を積極的に働きかける。
- ⑤ 学会内部の研究倫理審査機能をもつ委員会を創設する。
現場での実践報告の投稿を促進するため、論文投稿前に倫理的問題を審査する委員会を立ち上げる。
- ⑥ 投稿数の増加
学部卒業論文の演題発表、論文投稿を促すよう教員の協力を得る。

(次ページへ続く)

3) 理事会組織に関する取り組み

今後、市民理事を会員の中から募ったり、臨地の方の積極的な参加が必要である。

4) 学会名称の変更に関する議論

2015年将来構想委員会で学会名の変更が議論されたが、本学会設立の目的に立ち戻り、聖路加が培ってきた教育や研究の基盤を生かし、本学会の独自性を打ち出していくためにも本学会の名称は、「一般社団法人 聖路加看護学会」のままとすることが適切である。

■ 第25回聖路加看護学会学術大会のご案内



学術大会長

平林優子(信州大学学術研究院保健学系教授)

来る、2020年10月3日(土)、第25回聖路加看護学会学術大会を、「すべてのひとの発達に関わる看護—その人らしい豊かな経験を支える—」をテーマに開催することになりました。その人らしく生きること、豊かな経験を支えることで発達に関わっている看護について考えていきたいと思っています。

教育講演では、アタッチメントの生涯における機能について、東洋英和女子大学大学院教授の久保田まり先生に研究的視点でお話しいただきます。特別講演は、「どんな人もその人らしくしたいことを」を実践されている、社会福祉法人むそう理事長、戸枝陽基先生にお話しいただきます。シンポジウムでは、「豊かに生きるための意思決定支援」として、遺伝看護、移行支援、がん看護の活動から検討します。ランチタイムミニ講座では、針穿刺の苦痛緩和や、認知症患者のAdvance care Planningを、またシステムティックレビューについて学ぶ機会を企画しました。口演、示説では、会員の方々と多くの知見を共有したいと思います。演題申し込みは3月2日(月)より開始になります。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

在宅療養中の特発性肺線維症患者の 生きる意味への思いに関する質的研究



猪飼やす子

(聖路加国際大学大学院看護学研究科)

間質性肺炎のうち、原因不明の間質性肺炎を特発性間質性肺炎といいます。その約半分を占める特発性肺線維症 (Idiopathic Pulmonary Fibrosis; IPF) は、病状の進行に伴い強い呼吸困難感の生じる稀少難病です。臨床経過は、緩徐に進行するものがある一方で、急激な進行を認めるものがあり、初回の急性増悪で 8 割が亡くなるとされています。

IPF を含む慢性呼吸器疾患は、生命維持に不可欠な呼吸を障害されるため、Lanken ら (2008) は、不安や抑うつ、パニック発作の生じるリスクが高く、生きる意味、存在、目的、後悔、運命などのスピリチュアル(霊的)な現象への問題を引き起こす、と述べています。人生の意味への対処が身体的な苦痛を軽減させ、幸福に寄与すると考えられていますが、IPF をもつ人々が、どのように人生の意味を受け止めているのかについての報告はみあたりませんでした。そこで、人生の意味への問いを含めた体験全体の理解が重要であると考へ、2017 年度聖路加看護学会看護実践科学研究助成を賜り、本研究を実施いたしました。

本研究では、IPF をもつ人々の病いと共に生きる体験を、気持ちや生活行動の変化と適応、人生の意味や目的についてのインタビューガイドに基づく半構造化面接にて調査しました。内容分析により、5 カテゴリー、20 サブカテゴリー、174 コードが抽出されました。IPF をもつ人々の病いと共に生きる体験は、逃れられない心身への苦痛を抱え、唯一の治療薬である抗線維化薬の副作用に悩まされながら、死や限りある時間を認識しながら生きるようになっていました。また、いままで生きられた人生からもたらされる支えにより、安定した気持ちを保ちつつ生活上の問題に対処し、できることを模索し続けて生きていることが記述されました。

以上により、IPF をもつ人々は、病状の悪化や症状の増悪に直面しながらも、人生の意味に支えられて生きていると考えられ、人生の意味への看護援助が、IPF と共に生きていくことに貢献する可能性が示唆されました。看護実践研究助成金を賜りましたおかげで、稀少難病である IPF への看護の新たな知見を得ることができました。心より深謝申し上げます。

妊娠中のマイナートラブルに対する熟練助産師の「助産力」に関する研究



新川治子

(元岐阜大学医学部看護学科、現安田女子大学看護学部)

2016 年度に看護実践科学研究助成基金を得て「妊娠中のマイナートラブルに対する熟練助産師の「助産力」に関する研究」を行いました。妊娠中のマイナートラブルとは、妊娠中に現れる様々な不快症状のことです。これまでの研究で、妊婦の QOL や胎児への愛着に影響があることが分かってきておりました。そこで、本研究では助産院で働く熟練助産師の語りや実践の場面から、助産師のマイナートラブルに対する認識と、その実践における知識と技術である「助産力」の実態を明らかにし、妊娠中の女性の健康管理について示唆を得ることを目的としました。

調査には、関東、東海、中国地域で開業する熟練助産師 12 名(30 歳代から 80 歳代、平均助産師歴 28.8 年)に協力を頂けました。半構成的面接法と妊婦健康診査場面での参加観察法を実施しましたところ、熟練助産師たちは、妊婦とかかわる時間の長短ではなく、妊婦の些細なしぐさや言動から妊婦をとらえ、「気づかせるケア」、「セルフケア能力を高めるケア」、「出産から育児までを見据えた知識の提供」を対象に応じて行っていることが明らかとなりました。また、あらゆるケアは妊産婦自身に定着するように行われており、生涯にわたっても活用できるものとなっていました。私はこのような妊婦支援を提供することこそ、わが国のすすめる切れ目のない支援における助産師の役割であると思いました。そして、開業助産師たちが活用していた知識や技術は、経験だけでなく助産学基礎教育に基づいていることから、施設内で妊産婦にかかわる助産師の活動においてもこれらのケアは実施可能であり、対象の多様性からより求められるようになることが推察されました。

妊娠中のマイナートラブルに関する研究は私のライフワークともいえる研究です。本基金により開業助産師による妊婦支援の実態についてさらに追究をすることができました。貴重な基金を頂きましたことを心よりお礼申し上げます。

聖路加看護学会ニューNo.48

▶発行:2020年2月14日

▶編集:宮原 晴子 中田 諭
佐々木菜名代 松尾 尚美

▶連絡先:

〒104-0044

東京都中央区明石町 10-1

聖路加国際大学内

Tel 03-3543-6391(代表)

Fax 03-5565-1626(代表)

<http://slnr.umin.jp/>

ニュースレター発行や
様々な情報をメールリス
トでお伝えします。
未登録の方、再登録の方
は是非ご連絡を。

■学術交流委員会からのお知らせ

「看護実践科学研究の推進を目指し、看護実践の向上と看護学の発展に寄与すること」を目的とした「一般社団法人聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金制度」による2020年度助成対象研究の募集を行いました。ご応募いただきありがとうございました。選考委員会の審査を経て理事長が決定後、申請者の方々に結果の通知をいたします。

また、今年度の学術交流会は、本年10月3日(土)開催の第25回聖路加看護学会学術大会終了後に開催を予定しております。交流会の内容につきましては、決まり次第お知らせする予定です。どうぞ、ご期待ください。
(担当理事 吉田俊子)

■学会誌編集委員会からのお知らせ

聖路加看護学会誌は、2020年3月頃から、「メディカルオンライン」(株メテオ)に掲載することになりました。学会の年会費の請求書を郵送する際に、ログインするためのID/PW情報をお送りいたします。ID/PWを利用してログインした場合は、学会誌の論文は無料で閲覧できます。冊子体の学会誌の刊行をどのようにするかについては、今後、全会員を対象にアンケートをとり、インターネットの利用やPC環境、会員のご意見を把握したうえで、検討を進めることを計画しています。

(担当理事 亀井智子)

■会計からのお知らせ

今年度(2019年)の会費納入がお済でない方は、下記口座にお振込みをお願いいたします。

振込先:郵便振替口座

口座番号:00100-8-670371

加入者名:一般社団法人 聖路加看護学会

今期会計年度2019年4月1日より年会費を10,000円に値上げさせていただき、入会金は廃止となっております。詳細につきましては、ニュースレターNo.44「年会費値上げのお知らせ」をご一読ください。学会活動の充実を図り、会員の皆様に還元できるよう努めておりますので、ご理解を何卒よろしくお願い申し上げます
(担当理事 中村めぐみ、朝川久美子)

■庶務からのお知らせ

2020年1月末現在の本学会の会員数は634名となりました。

新年度を控え、勤務先(所属)、住所、メールアドレスなどが変更になる方もいらっしゃると思います。ご変更の際は、学会事務局までご連絡ください。会員の皆様には引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。
(担当理事 小林京子、奥 裕美)

■編集後記

広報委員として6回目のニュースレター発行となりました。

いよいよ2020年、オリンピックイヤーがスタートしました。皆さまは、どのように迎えられましたか。寒い日々が続いていますので、どうぞご自愛ください。

(広報委員会 松尾 尚美、中田 諭、佐々木菜名代、宮原 晴子)

